

令和5年度 第1回仙台市精神保健福祉審議会議事録
(協議部分のみ)

1 日 時 令和5年9月7日(木) 19:00~20:30

2 場 所 仙台市役所8階 第5委員会室

3 出 席 江畑来春委員、遠藤幸代委員、鹿野英生委員、川村有紀委員、佐藤博俊委員、
鈴木勇治委員、嵩さやか委員、釣舟晴一委員、富田博秋委員、西尾雅明委員
原敬造委員、安田重委員、安田たかね委員、山下はる奈委員
※欠席：岩槻利克委員、大嶽友和委員、香山明美委員、志水田鶴子委員
吉田香里委員

[事務局] 清水障害福祉部長、宍戸障害者支援課長、佐藤精神保健福祉担当課長
林精神保健福祉総合センター所長、野呂地域生活支援係長、高橋主査

4 内 容

(1) 開会、(2) 挨拶

- ・事務局より、定足数の確認が行われ、会議の成立を確認。

(3) 議事

- ・議事録署名人について、富田会長より佐藤博俊委員の指名があり、承諾を得た。
- ・富田会長から、仙台市精神保健福祉審議会運営要領第4条第1項に基づき、議事を公開にすることを確認。

発言者	発言要旨
富田会長	<p>それでは、作業部会長である西尾委員より「地域における支援体制のあり方」に関する最終報告書案について説明をお願いします。</p>
西尾職務代理人	<p>※資料1-1および1-2により説明</p>
富田会長	<p>本日は、新たに追加された「ピアサポートの活用に係る事項」について議論を進めていく。各委員から質問や意見をいただきたい。</p>
川村委員	<p>当事者の委員として出席している。このピアサポートを推進するための調査を踏まえ、仙台市としてどのような取り組みとしていきたいのか。</p> <p>また、“ピアサポート”というのが、フォーマルとインフォーマルがあるという説明であるが、双方の意味が混合されているのではないか。例えば、資料1-2「地域における支援体制のあり方」の(2)“当事者の期待に沿ったピアサポートが行われること”と記載されているが、この当事者が誰になってくるのか。例えば、インフォーマルなピアサポートということであれば、ピアサポートの当事者同士ということになると思うが、利用者の期待に沿ったピアサポートがピアサポーターによって行われることとなるのか。誰がどのように行っていくのか等、わかりづらい。そもそもピアになるというのがどういうことか。ピアスタッフになるということであれば、研修を受けることや事業所に雇用されるということだと思う。</p>
西尾職務代理人	<p>1点目のどのような事業になっていくのかについては、仙台市で精神障害に特化したピアの活動を推進するセンターのような場所をつくり、情報発信や研修の企画、ピアの人を常駐し、スーパーバイズ的なことを行うなどをイメージしている。あとは、普及啓発を行っていく一体的な場を作れば良いと思っているが、具体的にどう予算化していくかにもよってくる。</p> <p>2点目について、ピアの定義について、基本的に広くとることが重要。具体的な取り組みについては、インフォーマルじゃないところにやや焦点が当たっているようだ。用語がわかりにくいいため、整理が必要である。</p>
佐藤担当課長	<p>事業化の最終的なイメージは、西尾座長が説明したとおり。予算も関係してくるため、全ての機能を一気に取りそろえることはできないかもしれないが、多段階的に実行に向けて検討を進めていきたいと思っている。</p>
川村委員	<p>インフォーマルではなく、フォーマルなピアサポートを想定した記述が多く感じる。それが仙台市の実情であり、それを踏まえた内容を検討していくのだと理解した。きっかけは、精神障害の当事者や家族かもしれないが、市民を巻き込んで考えていくことが大事だと思う。</p>
山下委員	<p>精神障害の当事者として参加している。川村委員の話に共感する部分があると感じた。</p> <p>資料1-2を拝見した時に、ピアサポートの推進のために必要な取り組みとして(1)から(5)にかけて、フォーマルとインフォーマルな部分が混合していると感じ、ピアサポート活動が何を指しているのか疑問に思ったが、事務局の説明を聞いて、意図的に広く表現しているということまで理解した。もし表現を整理するのであれば</p>

ば、フォーマルな部分とインフォーマルな部分を整理して標記するととらえやすいと思った。

以前福島にいた際、ピアサポーター養成研修を修了した人が、相談支援事業所や医療機関、保健所等へ登録をして、自分ができる活動、例えば長期入院している人に体験談を話す、買い物のサポートをする等の希望を書いてマッチングしていた。そういうものがなされれば、マッチングや当事者の期待に沿ったピアサポートにもつながっていくのではないかと思う。

西尾職務代理

具体的な文言が何を指すのかはできる範囲で修正していきたいと思う。

フォーマルなところがポイントになってしまうのは、そもそもインフォーマルに働きかけるものではないという自然発生的なものもあるため、取組みとしてはどうしてもそこに焦点があたってしまうのだろうと思う。

川村委員

インフォーマルとフォーマルが混合されているという話の中で、フォーマルを雇用されていることと考えるのであれば、当事者が見たときにわかりやすいように書いた方がよい。

個人的な考えとして、ピアサポーターやピアスタッフは雇用された人であっても、絶対にピアサポートの経験がある人が条件だと思う。ピアサポートの経験がないままのピアスタッフはただのスタッフ。ピアサポートのよさや魅力を感じて行う人がピアスタッフやピアサポーターだと思う。

今後センターを立ち上げた場合、常駐するスタッフとして想定しているのであれば、ピアサポートの理念に基づいたものである必要があり、そこで働く職員はピアサポートの経験もあって、魅力を感じている人でなければならないもの。

ピアサポートは誰でもできると思うが、入院している人同士が病棟内でピアサポートを行っていることもあり、実際自分も経験がある。ピアスタッフとして活動するのであれば、また違った経験が必要だと思うため、今回ピアサポートについて、審議されたことはすごく有意義なことだと思うが、雇用やピアスタッフということも含めて考えるのであれば、もう少し用語の整理や踏み込んだ検討が必要だと思った。

富田会長

例えば、資料1-2の(3)「ピアサポートの実践を支える理念や知識を段階的に習得すること」の中で、“ピアサポートに対する不安や心配を軽減し”と記載されているが、それは利用者に近いピアで、ピアサポートの実践を支える理念や知識について、段階的かつ継続的に学ぶというのはスタッフ、つまり雇用されるスタッフということか。

川村委員

資料(3)「ピアサポートの実践を支える理念や知識を段階的に習得すること」の“実践を支える”とは、ピアカウンセリングやピアサポートグループ等に雇用されている人を対象にしているのかと見受けられるが、ピアサポートグループをやっている者同士が行き詰った時にどうしたらよいのか相談しているのであれば、それはピアサポートの場になりうる。

また資料(4)「ピアサポートの過程で生じる悩みや困りごとに対処し、活動の継続を支えること」について、困りごとが生じたときに同僚のスタッフ等が相談に乗ってくれるとも思うが、雇用されているピアスタッフ同士でグループスーパービ

ジョンにもなりうるため、いろんな捉え方ができる資料にみえる。

西尾職務代理

報告書の中でピアサポートの定義があり、ピアスタッフの活動もピアサポートの一部、当事者同士で話し合うのも、インフォーマルな活動もピアサポートの一部ということで記入しているが、ピアスタッフ的な響きが混在していると思う人もいると考えれば、当事者や他の人が見たときにわかりやすく整理する必要はある。

富田会長

今回センターを作り、そこにスタッフを常駐するとの提案に関して、仙台市内には複数のピアサポートのグループがあるが、既存のグループのスタッフの層を厚くしていくということなのか。あるいは、各ピアサポートのグループを支援し連携する形で1つのセンターをつくっていくのか、具体的なセンターの構造やシステムはどのようなものか。

西尾職務代理

例えばピアサポートのグループごとに違う人が集まって情報を共有する、あるいは困りごとがあった時の相談先として、経験のある人がスーパーバイズしてくれるというようなセンターをイメージしている。

川村委員

センターの構想として、ピアサポート加算と関係するものなのか、そのために作るのか、あるいは別の動きなのか。

佐藤担当課長

加算については、関連しない事業である。

原委員

ピアスタッフを雇用することについて、何らかの形で研修を受けているという資格証のような制度があるといいのではないかと。例えば、福島県や千葉県で実施しているようだが、千葉県は、養成講座に時間をかけ、ピアスタッフ認定をしているようだ。病院やクリニック等でピアスタッフを雇用することを想定した場合、募集をかけやすく、きちんと研修を受けているという安心感もある。センターをすぐにつくれるのであればそれが理想的だが、現実的にはピアスタッフを増やしていく、あるいは雇用の場を確保していくということから、資格制度のようなものをつくっていくのが有効ではないかと思う。

富田会長

ピアの定義の明確化、また資格制度なども含めた制度の検討を引き続き進めていただければと思う。

次に「精神障害者の地域移行の推進」について、事務局から説明をお願いします。

佐藤担当課長

※資料2により説明

富田会長

「精神障害者の地域移行の推進」についての説明であった。各委員から質問や意見をいただきたい。

原委員

地域移行に関しては、はあとぼーとを中心にして、数年間検討した経験があると思う。その中で、住居をいかに獲得するかということが、退院促進にとっては一番必要な課題になる。検討の順番として、住居の課題を最後に回すのではなく、他と並行してやらないと、地域移行の検討がさらに遅れると思う。

2「地域移行関係者の人材育成に係る事項」に関しては、はあとぼーとの地域移行支援の経験を総括し、たたき台として検討を進めていけると思う。やはり地域に

帰っていく場合、住居の問題は非常に大きく公的に状況を整備していないとうまくいかない。民間の住居に入居することは、劣悪な住宅環境に入らざるをえない場合があるのではないかと危惧している。そういう面では、公的な市営住宅等を確保すること等を行政として考えてほしい。その連携の上で、退院促進をしていくことが重要だと思う。

委員の構成に関しては、権利擁護の観点から、法律家を含めることが必要である。住宅問題等含め、障害者のもつ権利や擁護の問題をきちんとすべき。また、当事者の比率を増やすこと、男女比率を含め、委員構成をよく考えるべきだと思う。ジェンダーの問題に配慮し、女性の比率を増やし、しっかりとした組織構成にしていきたい。

佐藤担当課長

住まいの問題が最優先ではないかという点について、当然住む場所があった上での話ではないかという意見はあった。住居の問題となると、仕組みを作るのが非常に難しい。大家さんが言っていることの中には、実際のサポートとしてどのようなものがあるのかわかれば、貸してもよいというような意見もある。サポートする仕組みと住む場所が1セットでないと、おそらくうまくいかないだろうと考えている。どちらが先でどちらか後かということはあるが、まずそのサポートをできる仕組みとして、病院から地域に退院した時に、地域で援助する側としっかりとして援助関係が構築されていること、またサポートする・される関係性がきちんとできるような構造を作り、その中で住居の提供について、考えていくことが進め方として現実的かと考え、この検討の順番とした。

委員構成については、当事者の比率を高めること、男女比を均衡させることは十分配慮をしていきたい。

富田会長

資料2「精神障害者の地域移行の推進」に関する検討について、①「入院中の障害者の地域移行に係る事項」という部分においても、③「住まいの確保と居住に係る事項」も含めて検討が始められるということになると思うが、さらに③の検討の時により重点的に検討していくということか。

川村委員

富田会長の検討の順番の説明を聞いて、①「入院中の精神障害者の地域移行に係る事項」と②「地域移行関係者の人材育成に係る事項」に③「住まいの確保と居住に係る事項」も含まれて検討していくことはなるほどと思った。意見について、例えばグループホームや宿泊型自立訓練施設、不動産を扱う人等の退院後の住まいを支援する関係者からも聞いていく必要があると思う。以前、はあとぽーとの企画で、宅建協会や実際に精神障害者の人に住まいを貸している大家さんから話を聞く機会があった。現在も実施されているのであれば、もう少し踏み込んだ話もできるのではないかと思う。

また住居の問題だけでなく、人材育成やノウハウに関してもそうだが、当時から精神障害者のピアサポートの活用ということが話題になっていた。今回の議題においても、ピアサポートの活用の話があり、話が進展しているのか戻っているのかよくわからない。

地域移行に関しても、ピアサポートのあり方や活用といったところを考えていけるのではないかと思う。個別支援であれば、ピアスタッフが有効になるかもしれないし、また病棟でのグループへの働きかけや地域とのつながりといったところ

でもピアサポートの活用も含まれるのではないかと思います。

釣舟委員

ピアサポーターやピアスタッフ等も含まれるかもしれないが、地域移行関係者とは誰のことなのだろうか。審議会の委員の方々の肩書もそうなのだろうと思いつつながら、他にもいるのではないか。ピアの方々や不動産など、多職種連携のような関わりが必要になってくると思う。そうした時に誰をどのように育成していくのかということになり、ターゲットを絞る必要や、何をどう育成していくのかは、審議会で考えていく必要がある。

佐藤担当課長

地域移行を考えたときに関わる人たちはたくさんいると思う。当初のイメージは、病院に入院をしている人が地域に移行してくるということを考えたため、病院側のスタッフの方や医師、看護師、PSW等の職種の人たちがまず浮かんでいるということ。また地域側から迎えに行く立場として、保健福祉センターの職員、ピアスタッフも含まれると思っている。まず個別支援に関わってくる立場の方たちが、最初のターゲットになっていき、その後幅が広がっていくと思う。地域に移行する人たちが、どういうところで暮らすのかとなると、地域の人たちの関わりが少しずつ広がっていくと考えられる。

この辺についても、座長とご相談させていただきながら、委員の構成や人数について検討していきたいと考えている。実際の議論においては、例えばピアサポートの検討をした時もだが、グループ・インタビューのような形でテーマを設定して、それに関わる人たちに集まっていただくような協議方法はあると思うため、引き続き検討していきたい。

富田会長

本日の審議内容を踏まえ、今後作業部会の設置検討を進めて参りたいと思う。本日の審議は以上とし、進行を事務局にお返す。

議事録署名委員の署名

会長

富田 博秋

署名委員

佐藤 博俊